

第54回中国四国地区  
大学図書館研究集会  
研究発表

2013/10/10

『利用促進策の実施について』

発表者：香川大学 櫛橋一雅

# 要旨

香川大学農学部分館において  
利用者の顕著な減少があったこと  
から、平成21年～24年にかけて  
利用促進策を検討実施し、一定の  
成果を上げた

# 香川大学図書館の構成

- ・ 中央図書館 546席 7301m<sup>2</sup>
- ・ 医学部分館 159席 1741m<sup>2</sup>
- ・ 工学部分館 70席 863m<sup>2</sup>
- ・ 農学部分館 64席 1169m<sup>2</sup>

農学部本部棟の一部に間借り  
資料は農学部関連専門書主体  
2年までは主に中央館を利用

# 香川大学農学部分館の運営

- ・ 農学部教員から選出された分館長副議長、その他2名の委員から構成される農学部分館会議により運営される
- ・ 当時の事務職は常勤2名、非常勤1名により構成

# 内容項目

1. 利用状況の把握
2. 利用推移の検討
3. 対策方針の決定
4. 学内周知
5. 利用促進策の検討と実施
6. 実施後の利用状況
7. 反省点

# 1. 利用状況の把握

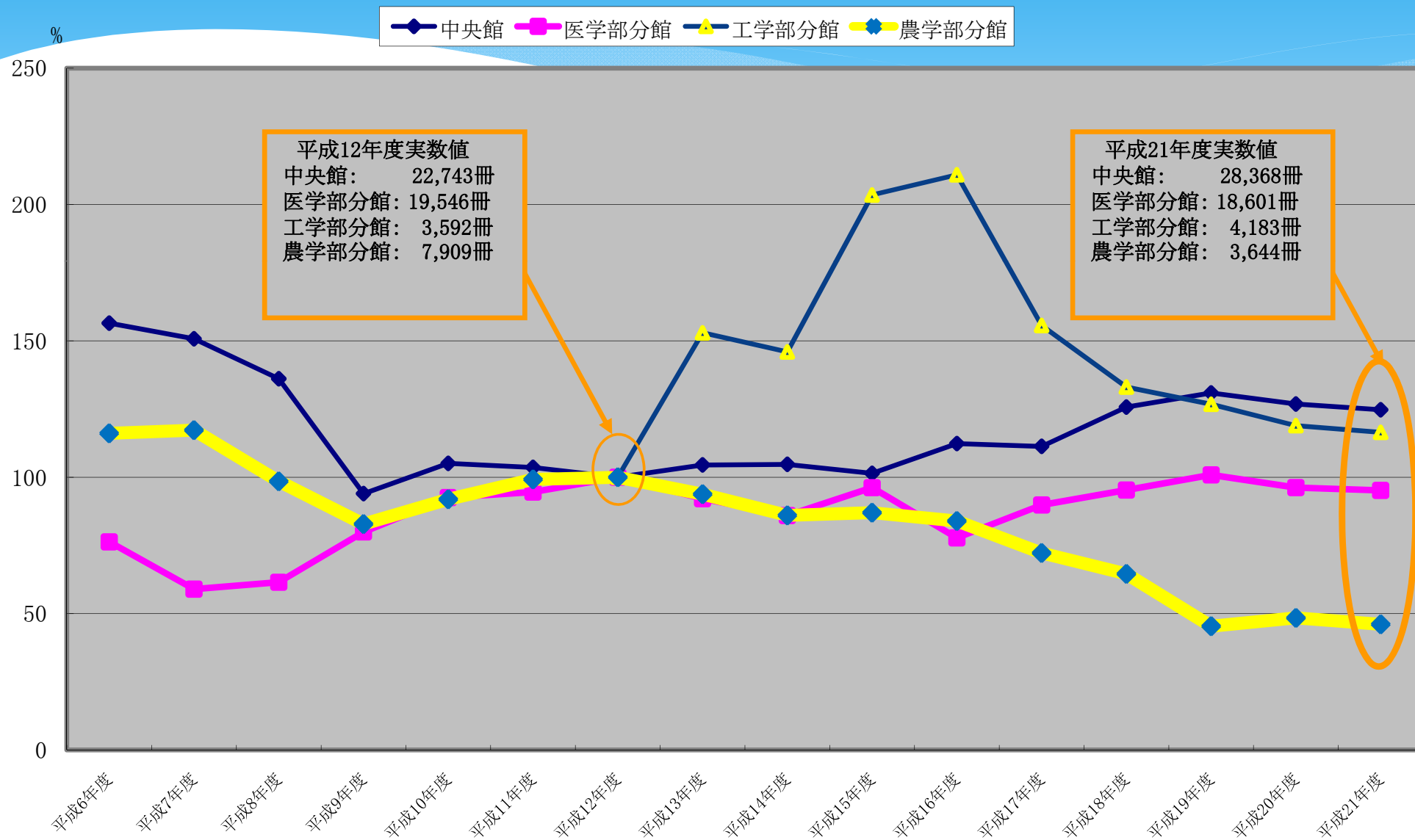
平成21年度末農学部分館会議での利用向上に関する議論がきっかけとなった

翌22年度には統計作業と結果の検討をおこなった

法人化以前の利用統計は電子化されていなかったため、統計に手間取った

# 平成6年度からの利用推移

平成6～21年度香川大学図書館各館貸出冊数の推移  
(図書館統計年報に基づき、平成12年度の値を100とした表示)



# 補足

利用状況の確認は、資料のあった昭和時代から行ったが、入館統計方法の変更や他館の統計資料が入手出来る範囲に絞ったため平成6年度以降を検討資料に採用した

統計方法が違うものの、昭和時代から比べると、入館者数・貸出数の落ち込みはもっと大きかった



## 2. 利用推移の検討

香川大学の4図書館のなかで、農学部分館の利用が特に低下していることが確認された。

教員・職員とも数年で分館の担当を離れるため、感覚的に長期間の変動を察知していなかった。

## \* 利用減少の原因についての推定

- ・電子ジャーナルの普及
- ・学内無線LANの普及により研究室においてもデータ利用可能になった
- ・学内自習室が整備された
- ・耐震工事閉鎖期間中に図書館利用の習慣が薄れた
- ・資料の購入額が減少し資料が古い

### 3. 対策方針の決定

利用の減少が確認された事により  
対策を検討実施すること、農学部分  
館会議と分館職員が中心となるが、  
学部教員全体への協力を求める事が  
決定された（分館会議）

検討状況は逐次学部教授会に報告  
されることになった（分館長報告）

## 4. 学内周知

図書館内だけの努力に留めない為  
学内に広く周知を行った

- ・ 分館長が学部教授会で報告
- ・ 報告書を作成して館長へ報告
- ・ 促進策に関する学部FDを開催
- ・ 図書館広報・全体図書館会議で報告

## 5. 利用促進策の検討と実施

分館会議で分館長を中心に検討するとともに、学部教授会で意見を募り、実行可能なものから実施していった（平成23年度～）

特に、まずは利用者に一度分館を訪れてもらう事を重視した

（教員担当講義での分館見学等）

# 実施した利用促進策

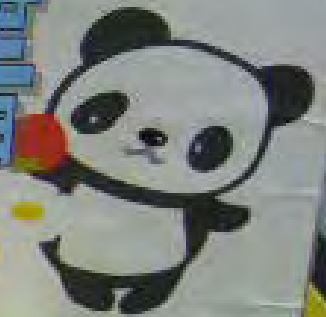
- \* 講義配布資料保管制度
- \* リザーブ指定図書制度
- \* 農学部分館ベストユーザー表彰制度
- \* 農学部講義と連携したガイダンス
- \* 学生ブックハンティング

(導入順)



## 講義配布資料保管制度

# リザーブ指定図書



このブックトラックの本はリザーブ指定図書です。  
貸出が出来ません。館内で閲覧してください。  
使用後は、このブックトラックに戻してください。

\*リザーブ指定図書制度は、試験期に一部図書の貸出が集中して  
利用できなくなるのを避けるため、貸出を禁止する制度です。







利用者表彰会場風景



# ガイダンス風景







第1回農学部図書館FD会場風景

## 6. 実施後の利用状況

平成23年度から利用促進策を実施した結果、長期にわたる減少傾向から利用増傾向へと変化した

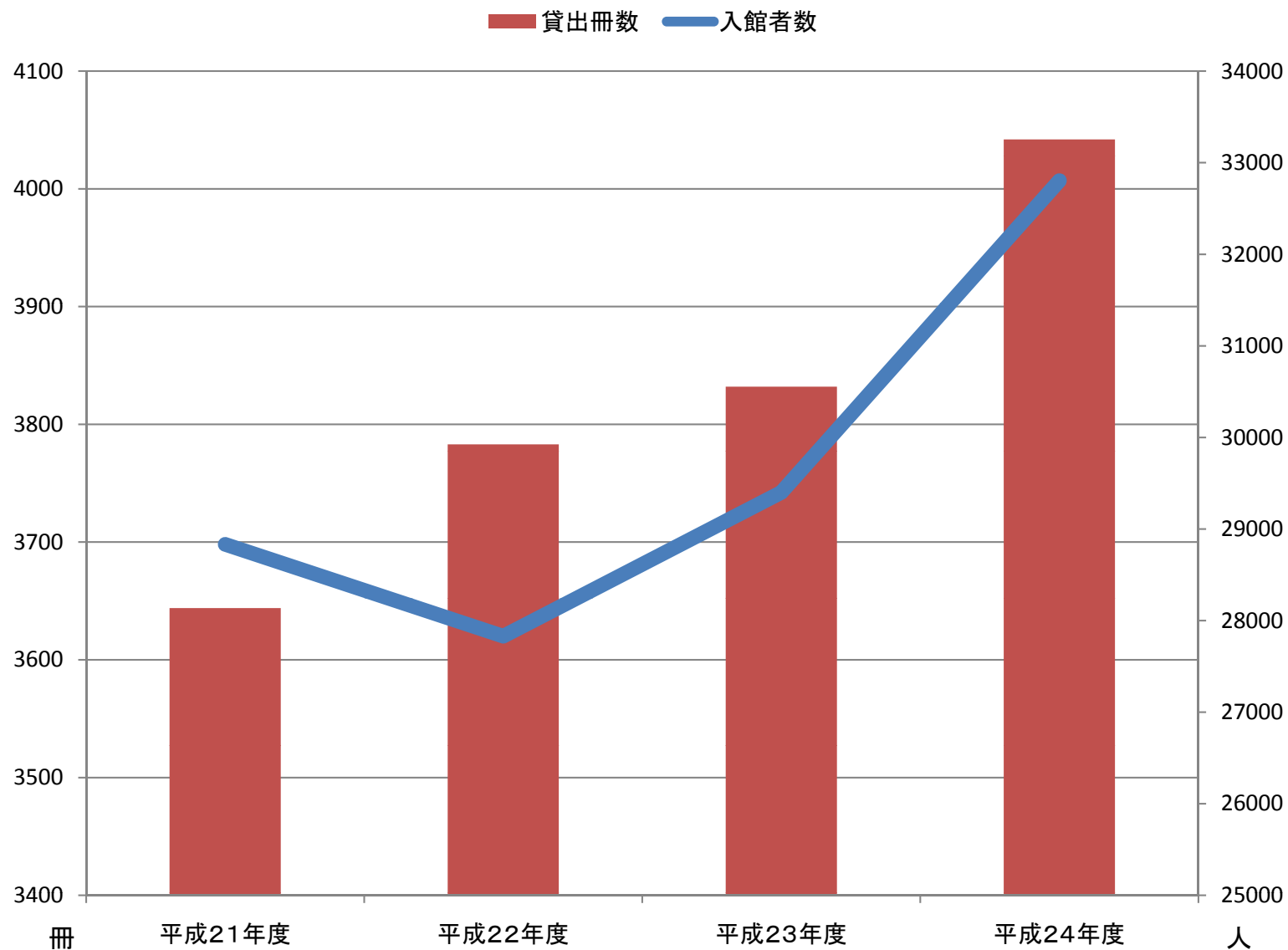
入館者、貸出冊数の増加率は、中央館を除く他の館と比較して増加率が高かった

利用促進策、特に教員と連携した、講義時間内での図書館ガイダンス、図書館資料を用いたレポートの出題や講義資料の保管などが功を奏し入館者数の増加につながった

ブックハンティング等の資料整備も貸出数の増加に効果があった

# 利用促進策導入後の利用状況

## 農学部分館利用者数・貸出冊数の推移



# 検討と実施のあゆみ(まとめ)

- \* 平成21年度：農学部分館会議にて問題提議
- \* 平成22年度：分館会議で利用状況減少の把握と問題の検討を行い、結果を教授会へ報告し、さらに教員に利用促進策提言の依頼
- \* 平成23年3月：教員からの提言を参考に利用促進策の検討
- \* 平成23年3月：分館長から報告書を図書館長へ提出
- \* 平成23年4月～7月：各種利用促進策の導入
- \* 平成23年10月～：利用促進策実績と利用状況を教授会へ随時報告
- \* 平成24年度：新たに大学入門ゼミ等との連携開始



## 7. 反省点

在学時に図書館を一度は使ってみる習慣づけにはある程度成功したが、電子ジャーナル導入等の環境変化の中で、どのような図書館が求められているかについての検討が課題として残ったのではないかと考える。（私見）